

# Seishin Campus

228



## おもな記事

- ・2022年度入学式学長式辞(要旨)
- ・新任教員紹介
- ・入学式報告(1年次生の声)
- ・聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞  
受賞者の言葉
- ・研究室探訪
- ・TOPICS
- ・聖心女子大学創立75周年について



聖心女子大学学長 高祖敏明  
KOSO Toshiaki

## 2022年度 入学式 式辞(要旨)

### この地球に生きる家族として 今以上に人間らしい世界をつくりあげるために

聖心女子大学に入学された皆様、おめでとうございます。この場には韓国と台湾からの交換留学生7人も加わっています。その中にはコロナのため2年間も待ち続け、ようやく願いを叶えた学生もいます。聖心にいらした皆さん、ようこそ。心より歓迎します。

新入生の皆さんは、2年を超えるパンデミックという状況の中で努力と工夫を重ね、今日の日を迎えられました。その努力と精進を最初に讃えたいと思います。

最近私の読んだ本に、学問とは人間をより人間らしくすることであり、それをどう実現するかを大学で学んだという記述がありました。現代のリベラル・アーツを掲げる本学は、まさにそのことを目指している大学です。

しかし、そのためには皆さんご自身の主体的な働きかけも必要です。

第一に、学長から皆さんへのメッセージとしてキャンパス内に初代学長マザー・ブリットの言葉を掲げておきましたが、「学びとはあなた自身から生まれるもの、外から与えられるものではありません」。大学では、単に教えられることを吸収し、それを覚えるにとどまらず、自分の頭で考え、自らの意見を鍛え上げることが求められます。

マザー・ブリットに学び、のちに国連難民高等弁務官を務めた本学1期生緒方貞子さんも語っています、「異なる意見をぶつけ合って、自分の意見を鍛え上げる、そして学び合う。…世界の中で生きていく力を身につけるための、多様性をはぐむ教育を積み重ねていくべきで…「英語力＝グローバル人材」だと思ったら間違いです。…より広がりのある視野を持つようとする好奇心、異なる存在を受容する寛容、対話を重ね自らを省みる柔軟性、氾濫する情報をより分ける判断力、そうした力の総体が求められているのです」と。

第二に、私はこうなりたい、これを学んであれを実現したいという夢を持ち、その実現に努めることが大切です。ただ夢という場合、例えば、グローバルな世界を舞台に国際貢献の仕事に携わりたいと考えている人がいるかもしれません。

国際的に活躍した先の緒方貞子さんは国際貢献をめぐって、「日本の外に国際社会があって、その国際社会に困っているかわいそうな人がいるからモノを差し上げるのが国際貢献だなんて、そんな話はない…私たちは同じ地球に住んでいるのだ。困っている人がいたら助けたい、何かしたいと思う。人道支援は貢献ではなく、人として当たり前のことなんだ」と語気を強めて語ることもあったそうです。

マザー・ブリットは、「私たちが住む社会はさまざまな矛盾に満ちています。しかし、その矛盾を超えて、どのよ

うな人でも神様から大切にされていることを自覚し、人々のために尽くせる人になりなさい」と学生たちに語っています。緒方さんの「同じ地球の仲間として当たり前」という考え方と、まさに通じ合っています。

他方、様々な矛盾に満ちた社会に目を向けますと、現代世界は超スマート社会と謂われるSociety5.0の予測困難な時代であり、AIの活用、通信技術5Gへの進展が見られるなど、生活の便利さや快適さが増大する反面、パンデミックや気候変動など「私たちの家」地球環境の不安定化、紛争や戦争による荒廃、貧困と格差の拡大、ジェンダーギャップや多くの子供に行き渡らない教育の問題など、多くの難題に直面しています。ウクライナ情勢やSDGsの17の目標を見れば、一目瞭然です。

皆さんはこうした先行き不透明で、時代の大きな転換期に社会を担うこととなりますが、大学での4年間に、さまざまな経験を積み、この地球に住む家族としての私たちが今以上に人間らしい世界を作り上げていく一員となってください。

「Be independent, Be intelligent, Be cooperative」、「自分の頭で考え、自分の意見をもつ自立した人になりなさい、広い視野を持った教養のある人になりなさい、多種多様な人と協力できる人になりなさい」。これはマザーブリッドが学生にむかって繰り返し語っていた言葉です。

さて、コロナ問題の収束が見えず、今年も挑戦が続きますが、今年度より授業の8割は対面方式で実施します。本学としても細心の注意を払いながら教育研究に取り組みますが、皆さんも工夫を重ね、SDGsの目標も意識しながら予測困難な未来に備えてしっかりと学んで新しい日常を作り出し、誰とでも友達になれる地球市民、グローバル共生の知恵を身につけた21世紀の教養人に育って行ってください。

来年2023年は、本学の創立75周年です。この記念すべき年を、皆さんと一緒に祝うことが出来るのも嬉しいことです。記念事業は、学生の皆さんが主体となって祝うものを軸にする計画で、その中身は現在募集中です。皆さんの積極的な参画を期待しております。

結びに、今日から始まる新しい生活が、神様の祝福と導きのもと、まずは楽しく充実した学園生活でありますように。そして、皆さんが「自立した人、広い視野を持った教養のある人、誰とでも協力できる人」へと大きく育つ学園生活でありますように。こうお祈り申し上げて式辞といたします。

皆様、ご入学おめでとうございます。 (要旨)

# 入学式

4月9日、2022年度の聖心女子大学現代教養学部入学式が、本学マリアンホールにて挙行されました。本年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度と同様に式典を午前・午後の二部制としましたが、3年ぶりに新入生の保護者の方々にもご来学いただくことができ、暖かな春の日差しのもと、希望を抱いた新入生575名と編入学生18名が、あらたな聖心生としての第一歩を踏み出しました。



祝辞 聖心女子大学 協力会  
会長 諸戸 精孝氏

## 1年次生に聞きました

### 入学前に思っていたこと

- 友だちはある？
- 興味ある授業やカリキュラムに取り組めることが嬉しい。
- 100分授業に耐えられる？
- 課題やレポートが大変そう。
- オンライン授業ってどんな感じ？
- 都会の生活、馴染める？
- 大学生活に慣れる？
- 共学出身なので女子大の雰囲気に馴染めるか心配。
- 幅広い教養について学ぶことができるのが楽しみ。

### 入学した当初は？

- 高校までよりも自由な時間が多いと感じた。
- 課題が多くて、部活も始まったばかりで忙しかった。
- スケジュールを組むことに苦労した。
- 授業では毎回課題が出されるなど、主体的に参加することを求められると感じた。
- 困ったときなど、一年次センターの先生方が丁寧にサポートしてくださったので、とても助かった。
- 思っていたより共学出身者が多くすぐに馴染めた。
- オリエンテーションや初回の授業で周りの人たちと話す機会が多く、友だちがすぐにできた。

### 半年経って

- 授業毎にメンバーが変わるので、たくさん友だちが出来て、充実している。
- これからボランティアにも積極的に参加していきたいと思っている。
- 授業を通じ、日々視野が広がっていくのを実感している。
- 授業のペースにも慣れ、課題もこなせるようになった。
- 4年後、成長した自分がイメージできた。
- 新しい興味、関心が生まれた。インターンにも参加してみたい。
- 難しい授業もあるが、先生方が丁寧に教えてくださるので楽しく学べている。

# 新任教員紹介



人間関係学科

岩原 紘伊(専任講師)  
IWAHARA Hiroi

この4月に人間関係学科に着任しました。私はこれまでインドネシアを中心に観光開発に伴う文化、社会、環境問題について、地域社会の動きに焦点を当てながら文化人類学的な調査・研究を行ってきました。私が関心をもつ観光という現象は娯楽として理解されがちです。しかし発展途上国の事例を考えると、環境問題や南北問題といった持続可能な開発をめぐる課題と深く結びついていることが見えてきます。私たちに身近な観光という現象を切り口に、より良い開発のあり方について皆さんと一緒に探求していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 専門分野

比較文化学、文化人類学、観光研究、インドネシア地域研究

## おすすめの本

矢口祐人著『ハワイの歴史と文化－悲劇と誇りのモザイクの中で』（中公新書）中央公論新社、2002年



国際交流学科

川上 豊幸(准教授)  
KAWAKAMI Toyoyuki

4月から国際交流学科に着任しました川上豊幸です。これまで私は森林保全や森林に依存して暮らしている人々の暮らしを守るためにレインフォレスト・アクション・ネットワークという環境NGOの日本代表として、紙パルプやバーム油を利用する企業や銀行への働きかけを通じた問題解決に取り組んできました。これまでの活動を通じた経験を活かしつつ、皆さんと共に学んでいければと考えております。よろしくお願いいたします。

## 専門分野

国際環境論、サプライチェーン管理による森林保全、環境金融、環境学

## おすすめの本

川喜田二郎著『発想法 改版－創造性開発のために』（中公新書）中央公論新社、2017年



聖心女子大学同窓会

# 宮代会

日本国内の6つの聖心姉妹校の7同窓会と共に日本聖心同窓会(JASH)を形成し、世界に広がる37ヶ国の聖心姉妹校の同窓会と共に世界聖心同窓会(AMASC)として結ばれています。

宮代日より

同窓会宮代会は、母校とのつながりを大切に、さまざまな活動を行っております。

## 【宮代会館】

南門を上がった左手にある会館では、福祉活動をはじめ会報誌の発行、追悼ミサ、宮代祭等行事の運営に、役員、理事を中心に同窓生が携わっております。地下1階の事務室では、同窓生スタッフが会員の名簿の管理、会館で行われるお稽古や活動のサポートなどを行っております。様々なジャンルのお稽古は、学生の皆様も参加いただけます。



## 【宮代ショップ】

大学管理棟1階にあるショップでは、文房具、履歴書、ファイルなどの校名入りグッズをはじめ、日用品も揃えております。2022年4月より、お支払いにキャッシュレス決済がご利用いただけるようになりました（クレジットカード・交通系ICなど）



## 【奨学金給付】

毎年、「宮代会奨学金」を博士課程前期1年生1名に、「宮代会特別奨学金」を大学4年生3名に給付しております。今後も研究に励む学生を支援し、母校への貢献を続けてまいります。



学生の皆様には、卒業時まで終身会費を納入していただく事で宮代会員としてお迎えすることになります。会員になられると、宮代会館のご利用、会報誌の送付などが受けられます。幹事や理事となって、同窓会活動に幅広くご参加いただくこともできます。

宮代会の活動は、ホームページでご覧になれます。<https://miyashiro-kai.com/>



## 2021年度

# 聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞受賞者

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒賞するもので、表彰式は卒業式で執り行われました。2021(令和3)年度は、次の3名です。

英語英文学科 加藤 直  
※現 英語文化コミュニケーション学科  
哲学科 福井 美夏汀  
教育学科 品田 真優



### 英語英文学科

※現 英語文化コミュニケーション学科

加藤 直  
KATO Nao

## 大学院でさらなる 挑戦を

この度は、名誉ある賞をいただき、大変ありがたく存じます。聖心女子大学の4年間は、机に向かうだけでは得られない、大きな学びに恵まれておりました。特に、ともに入学した友人たち、必修のクラスや教職課程、卒論を乗り越えた学友、課外活動の仲間、さらに授業も学科も違うのに親しくなった友にいつも助けられ、多くの方々と出会いは自分自身の変化や成長へとつながりました。そして、コロナ禍でも私たちに学ぶ機会を与え続けてくださった先生方、職員の方々に、心から感謝しています。

全ての皆様への感謝を忘れず、今後は本学大学院にて研究を深め、世界平和を築く一端を担う人となるよう、精進してまいります。



### 哲学科

福井 美夏汀  
FUKUI Minami

## 学業だけでなく課外 活動で得られた恵み

この度は榮譽ある賞を賜り、大変光栄に存じます。これまで支えてくださった方々に心から感謝申し上げます。苦楽を共にしたかけがえない友人、丁寧に向き合ってくださいました先生方、シスター方、職員の皆様と出会えたことが、お恵みであったと感じています。

大学生活において、学業だけでなく課外活動に参加したことで得られたものも多くありました。茶道、華道、箏曲では貴重なパレスにてお稽古いただきながら和の心に触れ、リタジーサークル、園芸部では、人のために想い祈ることや、人のあたたかさを実感しました。SHOC projectでは代表を務めさせていただき、多くの方にご協力いただきながら、福島の方々と出会い、活動することができました。本当にありがとうございました。

今後は聖心の卒業生として、後輩の活動を支えつつ、私自身心のある人となるよう精進してまいります。

### 教育学科

品田 真優  
SHINADA Mayu

## 国内外のフィールド ワークで得た視野

この度はマグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞を拝受致しまして、大変光栄に存じます。これまで支えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

4年間、自分が関心を持つ事柄に対し全力でチャレンジしてきました。教育学科では、国内外のフィールドワークに積極的に参加することにより、自分の目で見、心で感じ、人の温かさに触れ、視野を広げることができました。M.S.S.S.では、大切な仲間と共にコロナ禍でもできることを模索し、実行しました。従来のできず悔しい思いもありましたが、今できる形のボランティアができたように感じています。

今後は小学校の教員として、4年間で学んだ「真心を込め、愛を持って子どもたちと接すること」を大切に、学び続ける教員でありたいと思います。



## 2021年度 聖心女子大学学長賞 Earth in Mindが受賞



Earth in Mind受賞挨拶 受賞式にて

聖心女子大学学長賞とは、学生または学生団体が顕著な功績のあった活動に対し褒賞する制度です。

2021年度の受賞した団体に対し、2022年4月9日(土)、入学式にて、授賞式が行われました。

受賞した課外活動団体Earth in Mindは、2020年度には「環境省×Tabete!No-Foodloss!Youth Action Project」でオーディエンス賞を受賞。2021年度は、「気候変動アクション環境大臣表彰」のユースアワードを受賞するなど、学内に留まらず、対外的にも大きな評価を得ています。



気候変動アクション環境大臣表彰でユース・アワード受賞



## 赤ちゃんの指さしからヒトの本質に迫る

心理学科

岸本 健 教授  
KISHIMOTO Takeshi

専門

社会的認知能力の発達、指さし、進化心理学、比較行動学、行動観察

### 研究分野へ進むきっかけ

自分が学んだ大学では、変わった研究をしたいと思い、ニホンザルの行動を研究していました。そのときに習得した観察法が、別の研究にもつながると考え、大学院では赤ちゃんの行動を研究することにしました。赤ちゃんというのはとても興味深い対象なのですが、保育園で半年ほど観察を続けてみても、何を研究として取り上げたらいいか全くわからない。そんなある日、1歳半くらいの赤ちゃんが、熱を出して寝ていた乳児に対して、指さしをしたんです。そのとき保育士さんが、指さしをした赤ちゃんに「○○ちゃん寝てるね」と自然に応答されたのを目撃して、まだ言葉をもたない赤ちゃんが指さしをつかって意思疎通をしていることに衝撃をうけました。そのとき「指さし」が、もしかすると人を人として特徴づけているのではないか、と思ったんです。そこから、「指さし」についての研究がはじまりました。

### 赤ちゃんの「指さし」の意味

指さしの研究ではすでにドイツに第一人者の研究者がいました。が、当時ドイツの研究者たちは、実験研究、いわば統制された環境のなかで研究をしていました。一方で自分が観察して感じたのは、赤ちゃんの指さしは社会的文脈に根差したコミュニケーションツールなのではないかという点です。指さしによって、親御さんなり大人が応答する、それによってまた赤ちゃんによる新たな指さしが促される、つまりちゃんと「会話」ができていくということが「指さし」の大切なポイントだと思います。それは日常のなかでの行動を観察し続けることによってはじめて得られる知見ではないかと思います。なので、実験の場合にも、子どもだけでなく、できるだけ養育者の方にも入っていただくようにしています。

### 「指さし」と言語発達の関係

指さしは1歳から1歳半の間に出てくることが多いのですが、それがいちじるしく遅れていると、のちの言葉の発達にネガティブに影響するらしいということがわかってきています。したがってこの時期の赤ちゃんの指さしを促進させることが出来れば、その後の言葉の発達の遅れを予防で

きるかもしれない。また、赤ちゃんの周りにいる大人が指さしをすることで、赤ちゃんの指さしを促進することも我々のデータからわかってきています。大人の指さしと赤ちゃんの指さしの関係性もさらに追究するとともに、そうしたことを社会に周知するためにはどうしたらよいか、次の課題だと思っています。

いまはまだ取り組めていないのですが、YouTubeで指さしの重要性を訴える動画により、養育者への介入をすることで、指さしについて養育者の理解を促すことを考えています。というのも、言葉の遅れは、学齢期の学習意欲や、友人関係の構築に悪く影響し、自尊心や共感性の発達が損なわれることが考えられます。指さしをするかしないかという、とても小さなことで、のちにズレがどんどん大きくなっていくかもしれません。発達の初期段階の赤ちゃんの研究というのは、介入のしがいがあり、社会に対して意味のある研究ではないかと思っています。

### 学生へのメッセージ

個々のバックグラウンドや興味にそって、一人ひとりに寄り添うことが大切と考えて、日々学生と向き合っています。なので、ゼミでは個別の面談を重要視しています。ここではひとりひとりの進捗状況や現在困っている点は何なのかなど、細かく聞くようにしています。

今の学生さんたちは、とても真面目でお行儀がいい。ただもう少し、知への渴望というか、がむしゃらに取り組んでいる姿を見たいと思うところがあります。教わるという受け身の姿勢から、自分からコミットする、自分から積極的に関わる感覚が、学問にはとても大切で、そうなることで学びがとても面白いものに変化していくと思います。



災害復興支援

災害復興支援の一環として  
学生が南相馬を訪問

聖心女子大学の災害復興支援活動「USHひとつくり・まちづくりin南相馬」の一環として、3年ぶり(コロナ禍以降初めて)に南相馬を学生が訪問しました。



視察ツアー(震災遺構の請戸小学校)

本学では、南相馬への学生派遣の停止期間中も、Ecoマスクプロジェクト(マスクなど手作り小物を製作、頒布し、寄付金を送金)、お手紙プロジェクト(お手紙を通しての交流)、オンライン報告・講演会などの活動を通して、南相馬の方々との絆を深め、復興支援活動の継続に努めながら、対面活動の再開を心待ちにしていました。

現地視察ツアーでは、南相馬および浪江町など近隣地域に来られたことの喜びを感じるとともに、あらためて東日本大震災の大変さに触れました。

(教育学科 杉原真晃教授コメントより)



特別授業

歌舞伎役者 市川門之助氏による  
特別授業を開講

5月18日(水)、教育学科の専門科目「保育内容の理解と方法」に歌舞伎役者の市川門之助さんをお招きして特別授業を実施。

授業では、古典から新作まで「歌舞伎とは何か」エピソードを交えながらお話いただいたあと、楽屋や家庭で子ども時代に遊びながら身につけた「間合い」を手合わせ遊びで体験しました。そして門之助さんが瞬時にして武士、町人、女性になりきる身のこなしから、「らしく見える」身体のわざの大切さを目の当たりにしました。



(教育学科 今川恭子教授コメントより)

学生提案型授業

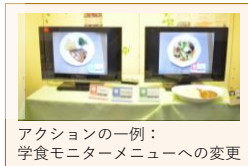
「フードロス問題について学ぶ」を開講

2022年度、学生提案型授業「フードロス問題について学ぶ/フードロス問題を自分ゴト化できる」を開講。

この授業は、学生活動団体「Earth in Mind」の発案によって開講されました。

■ Earth in Mind 学生コメント

「フードロス問題について学ぶことで、学生はもちろん一人でも多くの方に、この問題を“自分ゴト化”して欲しい、そういった想いで提案をしました。(一般社団法人Intellectual Innovations、株式会社クラダシの協力のもと)授業回の前半ではフードロス問題を専門家の方々から体系的に学び、正しい知識を得ることを目標としています。後半では、得た知識をワークショップ等の実施を通してアウトプットすること、それにより知識を整理し、自分ゴト化するきっかけにしてもらうことを目標にしています。フードロス問題について、私たちとぜひ一緒に学びましょう!」



アクションの一例：  
学食モニターメニューへの変更

学生支援

新型コロナウイルス感染症について未だ終息の兆しが見えない状況が続いており、さらに、ウクライナ情勢など緊迫した国際情勢による物価高が学生生活にも大きな影響を及ぼしていることから、本学では学生への継続的な支援を行うため、独立行政法人日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」の助成を受けながら、「食」に対する支援を行うことといたしました。

■ 支援内容

食の支援を必要とする学生に対し、本学学食の定食券2枚(900円相当)を配付。  
食券は在学中であればいつでも使用可能。

学生のための「食」支援プロジェクト

<p>独立行政法人日本学生支援機構 【新型コロナウイルス感染症対策 支援事業】助成を受けて、 食料で学食を支援します。</p>	<p>【特別授業と特別学食】 ●特別授業(5/18) ●特別学食(5/18) ●特別授業(5/25) ●特別学食(5/25) ●特別授業(6/1) ●特別学食(6/1) ●特別授業(6/8) ●特別学食(6/8) ●特別授業(6/15) ●特別学食(6/15) ●特別授業(6/22) ●特別学食(6/22) ●特別授業(6/29) ●特別学食(6/29) ●特別授業(7/6) ●特別学食(7/6)</p>
---	--

現在支援中で、  
多くの学生が  
利用しています。

Events

「1年次生のための聖書と祈りの集い」  
を開催

5月25日(水)、聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日に「1年次生のための聖書と祈りの集い」が、宮代ホールをメイン会場とし、YouTubeのライブ配信を併用して開催されました。

聖堂で一堂に会して祈ることはまだ叶いませんが、多くの1年次生が対面やオンラインで参加し、心を合わせて祈りを捧げました。

当日は、学長である高祖神父のお話、聖歌隊とグリークラブのオンライン合唱、上級生と教職員による祈り、そして、



最後に1年次生から募った祈りの上映などが行われ、会を終えました。参加者からは「お互いさま」の心を大切にしたいという感想が多く寄せられていました。

「ウクライナ&ロシア子ども絵画展」  
- 平和の再想像へ - を開催

開催中!

これは、最近のウクライナ情勢を受けて、緊急企画として本学グローバル共生研究所が主催し、公益財団法人 美育文化協会の協力により、ウクライナ及びロシア両国、およびミャンマーの子ども達が描いた絵画を展示し、平和への想いを共有するものです。

「想像力の危機の時代」とも言われる現代において、両国の子ども達が無心に日常を描いた絵画の鑑賞を通して、平和への想いを共に重ねることができればと願っております。



◆期間：5月5日～7月7日(木)まで

◆時間：10:00～17:00

◆場所：聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ  
1階エントランス(壁画「黄金の林檎」前)

◆入場：無料

※協力 公益財団法人 美育文化協会



# 聖心女子大学は 2023年に創立75周年を迎えます



1951年第一回卒業式

## 創立75周年記念事業について

これまでの聖心女子大学のあゆみを振り返りつつ、75周年を記念するさまざまな事業を企画しました。これらの事業は、聖心女子大学が100周年に向けてさらなる発展を遂げていくために、近年の社会の動向にも目を向けながら企画したものです。

### PROJECTS

#### 宮代グリーンプロジェクト

都心部にありながら緑豊かな聖心女子大学のキャンパスですが、75周年を記念して、脱炭素型社会への転換も意識しながら、一層快適でエコロジカルなキャンパスを目指して、「宮代グリーンプロジェクト」を推進していきます。



桜並木の再生

老朽化が進んだ、久邇宮邸の時代から受け継がれた正門から続く桜並木を再生していきます。



学生の憩いの場・活動の場の設置

学生が自由に活動できる場として、屋内外のパブリックスペースを拡充していきます。

これら以外にも、従来から行っているエコキャンパス化を、さまざまな取り組みを通じて一層推進していきたいと考えています。

## 宮代グリーンプロジェクト募金のお願い

「聖心女子大学振興基金（USH基金）」内に新たに「聖心女子大学創立75周年記念 宮代グリーンプロジェクト募金」を創設いたしました。次の100周年に向けた継続的なご寄付をよろしくお願い申し上げます。

「聖心女子大学創立75周年記念 宮代グリーンプロジェクト」において、大学が企画する優先事業から順に、ご寄付を大切に活用させていただきます。

#### ご寄付のお申込み/お問合せ

聖心女子大学 管理部財務課 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1  
TEL 03-3407-5811 / FAX 03-3407-5856

E-mail: e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

詳細は  
こちら



### 聖心女子大学アーカイブズ体制 整備プロジェクトが発足

創立75周年記念事業分科会の活動として、教職員のメンバーによる「聖心女子大学アーカイブズ体制整備プロジェクト」が発足。

今後は、既に収集している史資料の整理、目録作成や電子データ化と並行して、75周年記念事業に利用できるものを選定するほか、卒業生等を対象に、さらなる資料の提供を呼びかけてまいります。



### 創立75周年記念 式典・記念ミサ

2023年11月4日（土）に、創立75周年記念式典ならびに記念ミサ、記念シンポジウムを開催いたします。

### 創立75周年記念 シンポジウム

記念式典当日に「聖心女子大学が考えるグローバル共生」をテーマに、地球環境の問題に関する記念シンポジウムを開催します。

※シンポジウムの詳細は決まり次第お知らせいたします。



創立75周年特設サイト

<https://75.u-sacred-heart.ac.jp/>

